

3. エリヤとからすのパン

…前回より、聖書は比喩と時代性をわかって読まないといけない。

〈列王紀上 16 : 29~34〉 p.506

エリヤは預言者。予言者ではない。神様から言葉を預かる人。神様は見えないから、人をおして働く。エリヤ預言者の時代はアハブが王だった。アハブ王はもともと神様を信じていたが、異国の王女イザベルをめとったので偶像崇拜をするようになった。BC 9 c の話。アハブ王は奥さんの影響で自分の人生を変えてしまった。異性の影響は大きい。誰と結婚するかによって人生変わる。似たもの同士が付き合うので、自分が成長した分いい相手にめぐり合える。今は成長するときだよ。

さて偶像崇拜とは？

〈出エジプト記 20 : 1~6〉 p.102

モーセの十戒の場面で最初にくる戒め。神様は偶像崇拜を一番嫌った。偶像崇拜とは文字通り偶像を拜むのもそうだが、神様と自分との間を阻むものすべてが偶像である。

Ex) 趣味、お金、異性 et キリスト…

夫婦でも片方が浮気すると一番心が痛む。人と神様も同じ。神様はそんな人々を悔い改めさせようとしてエリヤを送った。

〈アモス書 3 : 7〉 p.1269

エリヤはモーセと並ぶ預言者。神様は目に見えないから、預言者をおしてはたらく。

〈列王紀上 17 : 1~7〉 p.506

神様がエリヤ預言者を送った場面。偶像崇拜をやめない限り、3年6ヶ月の間（ヤコブへの手紙 5 : 17 参照）雨も露もない、とエリヤが言った。これを聞いたアハブ王は、自分のしていることにいちゃもんつけられたので、エリヤを憎み、殺そうと思った。だから神様はケリテ川のほとりに身を隠せと言った。

Q : からすがパンを運んでくるという話を信じるか？

A : ゲゲゲの鬼太郎じゃあるまいし。僕がからすなら、運んでくる最中におなかが減って食べちゃう。聖書を文字どおり信じている人は、これぞ神様の奇跡だ！という。それでは神様が本当に伝えたいことが伝わらない。

Q : ペテロと魚の話で、聖書を読むときの重要ポイントは何だったか？

A : 聖書は比喩で書かれている。ペテロと魚の話で、魚は人にたとえられたように、からすも人の比喩であると考えられる。

Q : からすはどんなイメージか？

- ・ 黒い、不潔、不吉、烏合の衆
 - ・ 他のからすの卵や雛を食べたり、共食いしたりする
 - ・ 腐ったものや死肉を食べる
 - ・ 死体や墓場に群がる
- 「死」のイメージを持たれ、忌み嫌われる存在。外国でも同様

Q : なぜからすにたとえられたか？

→ 偶像崇拜する人は、神様から見れば忌み嫌われる存在だから。

Q : なぜ偶像崇拜する人が「死」のイメージを持ったからすにたとえられたか？

→ 「死」には2種類ある。1つは肉体的な死、もう1つは…？

〈ルカによる福音書 15 : 11~24〉 p.115

放蕩息子の話。兄は真面目だが、弟は先に財産をもらって遊びまくって、財産が無くなると帰ってきて、父親に温かく迎えられた。兄はそれを見て不満を言う。ここで父=神様、兄=律法学者、弟=神様を知らずに生きている人

Q : 父親が「息子が死んでいたのに生き返り…」とあるが本当に死んでいたのか？

→ 一度出て行って親子の関係性が切れていたものが再び繋がった。戸籍法でも、災害などで行方不明となった日から3ヶ月生死が不明の場合、死亡したものとされる。

∴ 聖書でのもう1つの死とは、神様との関係性が途切れている状態

アハブ王らは偶像を崇拜し、神様との関係性が途切れている状態で、神様から見れば死人であった。（バアルは太陽神、アシラは農耕神）

※ からすの運んできたパンや肉とは、偶像崇拜に来た人が運んできたお供え物

エリヤは本当のことを伝えているのに、なぜこんな目にあわないといけないのか、と悔しかった。でもエリヤ以外に神様の心情をわかる人がいなかったのがエリヤは偶像崇拝を止めさせるために生き延びねばならず、乞食のようにお供え物を食べるしかなかった。だからこのパンは涙のパンと言われている。

〈マタイによる福音書 21 : 33~46〉 p.35

→ぶどう園の農夫の話

農夫たち=イスラエル民族

主人=神様

僕=その時代の中心人物（預言者、キリスト）

息子=イエス

神様は時代毎に人を助けるため預言者を送ったが、迫害されたり殺されたりした。モーセやヨシュアも民に不満を言われたり反対されたりしたが、涙を流しながらも耐え忍んだので、エジプトを出てカナンまで行くことができた。

〈列王紀上 18 : 1~46〉 p.507

→エリヤ 1人 v. 霊バアル・アシラ 預言者 850人のカルメル山の焼肉対決に勝利。エリヤは3年半苦しく惨めな生活に耐えて国から偶像崇拝をなくした。エリヤは神様を信じて最後まで耐え抜いたので勝利できた。

エリヤも神様から選ばれた人だったが、皆から厚待遇を受けて、贅沢な暮らしをしていたわけではなく、むしろ乞食のような生活を強いられて、もがいて神様の願いをなし、栄光を受けた。イエスも同じく、神様に選ばれ、今ではキリストとか救い主と言われているが、イエスがいた当時は、赤い絨毯を引かれて全人類に華々しく迎えられたわけではなかった。いつもパリサイ人や律法学者から憎まれ、迫害を受けていた。

※ 神様の方は必ず勝利したが、言うことを聞かない人々に耐え忍んだ神様や中心人物の涙のパンによって、救いが成された。

聖書は比喩、時代性、神様の心情をわかって読まないといけない。

神様は何でもできる、という考えでは、読めない。何でもできるから魚が銀貨をくわえたり、など奇跡の物語で終わってしまう。自分の生活に当てはめて。

【応用編】

〈列王紀上 19 : 1~21〉 p.510

勝利の後の自暴自棄。エリヤは焼肉対決に勝利したが、その後イゼベルがエリヤを必ず殺すと言ったので、エリヤは恐れてこれ以上無理ですと言った。→二度勝利しなければならない。

〈列王紀上 17 : 8~16〉 p.506

かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。

→人々がエリヤの話を知り、エリヤのいるザレペテのやもめ女の家集まり、それらを持ってきた。

Q : なぜやもめ女は見知らぬエリヤに最後のパンを与えたか？

A : 日ごろから彼女は人々をもてなしていたから。日ごろの行い（平素信仰）が重要。日ごろの行いがないと、神様が遣わした人に会えない。

〈列王紀上 17 : 17~24〉 p.507

→これは本当に生き返った。人間は霊が先に肉を離れてしまうことがあるが、死後3~4日以内なら生き返ることがある。エリヤはそれを知っていた。イエスもラザロの息子〈ヨハネによる福音書 11 : 1~44〉、ヤイロの娘〈マタイによる福音書 9 : 18~25〉、ナインのやもめの息子〈ルカによる福音書 7 : 11~15〉を生き返らせている。

<補足>

神様観、異性チェックができる。この人が作られた土壌をチェック。家は仏教なのか？どれくらい熱心なのか。神様の心情を伝えるのが目的。

列王記上 17 : 1～7

を読んでおかしいところをチェック。からすがパンと肉を運んでくるか。今見たことがあるか？昔はあったか？神様だからできるか？

エリヤは預言者。予言者ではない。神様から言葉を預かる人。神様は見えないから、人とおして働く。

アハブは当時の王様。

エリヤが雨ないぞといったのは、アハブ王は異国の女性イゼベルと結婚し、神様を信じていたが、イゼベルがバアル・アシラ像を拝んでいた。アハブ王が拝むことで、国民全体に影響。

偶像崇拜は神様の最も嫌がること。

アハブ王は奥さんの影響で自分の人生を変えてしまった。異性の影響は大きい。誰と結婚するかによって人生変わる。似たもの同士が付き合うので、自分が成長した分いい相手にめぐり合える。今は成長するときだよ。

アハブ王はうっとおしいエリヤを殺そうとしたが、神様はそりゃ困るとエリヤにケリテ川に身を隠せ。からすがパンと肉を運んでくるから、と。エリヤは本当のことを伝えているのに、なぜこんな目にあわないといけないのか、と悔しかった。でもエリヤ以外に神様の心情をわかる人がいなかったのだから、恥をかかせてでも何とか生きるしかなかった。

この間言ったように、からすは比喻ではないかと思えないといけない。カラスの特徴は？

一般的には黒い、不吉、怖い、墓にいる、不気味、カラスが多いと人が死んだとかいう、死肉をあさるなど、死のイメージがある。

からすは重いものは運べないよね。じゃあからすとは？

死は肉体の死もあるが、他にもある。聖書には…

ルカ 15 : 11～24

に息子が死んでいたのに生き返ったとあるが、息子は死んでいない。父と息子は関係性が切れていたのが、もともどった。聖書では関係性が切れたことが死。

飢饉だから困ったときは神頼み。仏壇にもいいものをささげる。だからカラスは神様と関係が切れた人をさす。

聖書は比喻、時代性、神様の心情をわかって読まないといけない。神様は何でもできる、という考えでは、読めない。何でもできるから魚が銀貨をくわえたり、など奇跡の物語で終わってしまう。自分の生活に当てはめて。

<教訓>

列王記上 17 : 8～16

やもめ女の、かめの粉とびんの油が絶えない話。

食べ物もなく自殺しようとしていたやもめ女だが、最後のパンをエリヤに捧げた。平素からひとに良くしてあげようと思っていたから、後で食に困ることがなくなった。日ごろの行いが重要。

神様に抵抗がない人には以下のように。やもめ女は神様がいつも見ていると思っていたから、エリヤにつくした。

その後

列王記上 19 : 1～4

誰でも人は大勝利した後に自暴自棄する。エリヤもカルメル山の焼肉対決に勝利したあと油断して、自暴自棄に陥った。2度勝利しないといけない。聖書にはうまく生きる方法、すなわち真理が書かれている。

でも今日の話は文字どおり信じてはいけない。カラスも特徴をとおして比喻を解かないと。この話を教えてくれた人は比喻も時代性も神様の心情もわかるほど読んだんだろうね。でもそんなに読んでいない時間もないので、伝える、と話す。